

〔續昆陽漫錄七〕曆林問答

曆林問答ノ寫本ヲ藏ムル人アレドモ、序ナシ、近ゴロ板本ノ曆林問答ヲ見レバ、作者在方ノ序アリテ、應永甲午孟春日、正義大夫司曆賀茂在方書ストアリ、在方占ヒノ名人ユエ、今モ占者ヲ、アリマサト云トカヤ、享保中四言雜字ノ我國ニテ刻メル本ヲ得テ官へ上ル、是等ニテ見レバ、國初ノ板本絶エシモノ多シトミユ、

〔嬉遊笑覽八術〕ありまさ、昆陽漫錄云、○中 思ふに、ありは明の義にて、世にありくといふ是なり、まさは正しくをいへり、故事にも及ぶべからず、

〔三十二番職人歌合〕六番 左

をくさんのさうまやうしたる花の時風をばいれぬ五形なりけり○右歌略

算をき

算道の指南、五形の相尅相生を本體にて、一切の吉凶を判定する事なれば、花のときの相生に風をばいれぬ五形と勘あけぬ、いと興あり、

〔日本風土記〕九流

朝有陰陽生、名曰挨里アリ由吉ユキ、朝用占ト士、名曰挨里木師、風水土名曰三和吉○中、有座家出帖者、有等手執算盤、帶從者偕行、口呼ウラヤサシ胡來也、算後從則云釋迦厚詔士、乃誇十分高妙之言、人知諸人推算、亦依年月日時、以斷吉凶、師巫之術甚少、戲要之法頗多、

賣卜者

〔本朝文粹九詩序〕白箸翁

紀納言○長

貞觀之末、有一老父、○中 人如問年、常自言七十、時市樓下、有賣卜者、年可八十、

〔本朝無題詩七〕於室積泊即事

釋蓮禪○中

煙郊寺裡轉經侶、野寺有僧誦法華經文云水市社前賣卜、此泊有古社稱八幡、別當止住、老巫叩鼓賣卜、往反之舟、問安否、仍與纒故云、

〔塵塚談下〕江戸自慢の異同